

平成 27 年 「論語」に学ぶ人間学セミナー  
ービジネスリーダーとしての生き方を求めてー[第 3 回]

- ・日時 平成 27 年 4 月 8 日 (水) 18 時 30 分～20 時
- ・会場 龍野経済交流センター 2 階会議所ホール (たつの市龍野町富永 702-1)
- ・内容 ①仮名論語 「八佾第三」  
②楽しい論語塾 「教育者としての孔子」  
③子々孫々に語りつぎたい日本の歴史 「なぜ反日運動は繰り返されるのか」
- ・講師 英齋塾 (人間学探求) 塾長 三木英一氏
- ・受講料 無料 (教材費 2,000 円)
- ・参加者 63 名

○受講内容

まずは仮名論語「八佾第三」の素読をおこないました。

皆さん背筋を伸ばし姿勢正しくしっかりと読まれ、まとまりのある素読が出来たように思います。

「八佾第三」の佾は列に意味、八列 (8×8 64 名) での舞。仁の心がなくては形式的な礼、整った音楽を奏いても何になろう。前回のセミナーでも「仁」がでてきましたが、何事もこれがあってこそなんだと感じました。

その後、楽しい論語塾より「教育者としての孔子」の講義をしていただきました。

学ぶことと考えることのバランスが大切で「学びて思わざれば、則ち罔し。思いて学ばざれば、則し殆し」、「中庸の徳」。学ぶこと、考えることはどちらも同じくらい大切で左右に偏らないバランスの取れた人間性 (やじろべえのような) という言葉が印象的でした。また、「芸に遊ぶ」(六芸 礼・楽・射・御・書・数) ガチガチになるのではなく、学問をとおして徳や思いやりを身につけるだけの余裕を持つということで、このような深みのある人を目指したいと感じました。

引き続き、子々孫々に語りつぎたい日本の歴史より「なぜ反日運動はくりかえされるのか」の講義をしていただきました。

日本が主権を回復後、戦争犯罪の受刑者の「赦免」、刑死者には「法務死」により名誉の回復。サンフランシスコ講和条約十一条の中の「ジャッジメンツ」の訳、斜面に対し十一ヶ国すべてがOKを出したこと、当時、日本の人口およそ九千万人に対し四千万人が国会へ戦犯の赦免釈放を求める請願書を出したことなど歴史の真実を講義していただきました。講義を受け、まず自分たちの国の歴史に対する不勉強さが反日の口実を与えているんだな

と感じました。

また本当の歴史というものを語って頂ける方がいるうちに真実を学び、伝えていく必要性を深く感じました。

今回のセミナーも論語から日本の歴史と本当に興味深く、集中して学ぶことができました。次回、第4回目も受講される皆様により良いセミナーとなるようお手伝いさせていただきながら、実のあるセミナーづくりを心がけたいと思います。